

(第3種郵便物認可)

好きで学校

小牧南高・柔道部



強く精神的な支えに

小牧南高校(小牧市)の柔道部に四月、待望の一年生部員四人が入り、部が復活。毎日練習に励んでいる。

全員が白帯。平均すると、身長一六四センチ、体重五五キログラム。柔道をするにはちよつと小柄だ。それでも柔道にかける思いはみんな熱い。主将の渡部ブランドン君(さ)は「弱小柔道部とは思っていない。覚悟を持ってやっていると意気込む」。

三月まで二年間、部員はいなかったものの、活動はなく、事実上の休部状態だった。それが四月に、「柔道を教えるために教員になった」という名古屋

1年生4人入り復活

屋大柔道部出身で新任の高橋龍教諭(さ)が顧問に就任。部員集めに力を入れた結果、集まったのが四人だ。

杉本航平君(さ)は柔道初心者。「体を強くして、ムキムキになりたい」と入部した。「通学で使う駅に時々、不良がたむろしている。柔道で体を鍛え、不良の前を堂々と歩けるようになりたい」と願望を抱く。増田和史君(さ)も「三年間、柔道を続けて自信を持ちたい」と話す。

野々川正人君(さ)は四人の中で唯一の経験者。「何とか黒帯を取りたい」。中学三年

間は柔道部に所属しながら、黒帯を締められる初段は取れなかった。

またまた本格的な試合形式の乱取りはしていない。まずは体力づくりを優先。けがをしない体に鍛え上げている段階だ。

そんな部員たちに高橋教諭は情熱を持って教え込む。「ものすごく強くなるのは無理でも、柔道を一生懸命続けて人生のバックボーン(精神的な支え)にしてほしい」。柔道の昇級試験で名古屋市の同校で、大盛り(さ)飯を、(さ)やうしている。(加藤隆士)



小牧南高校柔道部の高橋顧問(中央)と部員たち。小牧市の同校で